

様式第 1 号

会 議 録

会議の名称		令和 2 年度第 4 回つくば市公共交通活性化協議会		
開催日時		令和 3 年(2021 年) 3 月 26 日 開会 10:00 閉会 11:30		
開催場所		つくば市役所 本庁舎 2 階 会議室 201		
事務局 (担当課)		都市計画部総合交通政策課		
出席者	委員	石田委員、中村委員(代理：中村課長補佐)、鈴木(裕)委員、佐藤委員、横地委員、松橋委員、小野委員、武藤委員、渡邊委員、西岡委員、星野委員、鈴木(誠)委員、谷田部委員、大澤委員、鈴木(保)委員、川根委員、坂本委員、一色委員、飯田委員、小原委員、小室委員、小又委員 ※中村(代理)、鈴木(裕)、横地、松橋、西岡委員はオンライン参加		
	その他	-		
	事務局	中澤次長、伊藤課長、細谷課長補佐、上田主任、北澤主事		
公開・非公開の別		<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部公開	傍聴者数	1 名
非公開の場合はその理由				
議題		<ul style="list-style-type: none"> <li>・つくば市地域公共交通計画の策定について</li> <li>・公共交通の利用に関するアンケート調査の集計結果について</li> </ul>		
会議録署名人		—	確定年月日	令和 年 月 日
会議次第	1 開 会			
	2 挨拶			
	3 議 題			
	審議案件 1	つくば市地域公共交通計画の策定について <ul style="list-style-type: none"> <li>・パブリックコメントの概要について</li> <li>・パブリックコメントで提出された意見について</li> <li>・パブリックコメント対応一覧について</li> <li>・つくば市地域公共交通計画 (案) について</li> </ul>		
	報告案件 1	公共交通の利用に関するアンケート調査の集計結果について		
4 その他				
5 閉 会				

<挨拶>

会 長：今年度の活性化協議会の大きなテーマは、新たな地域公共交通計画の策定だったが、おかげ様で案ができ、パブリックコメントでも多数の意見を頂いた。その結果を踏まえた対応や計画の最終案について本日審議いただきたい。

<審議内容> ○：委員 ●：事務局

・審議案件1 つくば市地域公共交通計画の策定について

●事務局：資料1～4に基づき、パブリックコメントと対応案について説明。

○委員：資料3-2の18頁、意見No39-1で「低炭素」という表現が削除されているが、全国的にも「低炭素、脱炭素」がキーワードになってきている。例えば、「スマートシティの実現に資する脱炭素な地域公共交通」、または「低炭素な地域公共交通」という表記にしてはどうか。

●事務局：ご意見を踏まえて、見直しをさせていただきたい。

○会長：まず、パブリックコメントとして、1人の方に60近い意見を挙げていただいた。丁寧に読んで頂き感謝申し上げます。

次に修正意見だが、資料4の96頁以降、施策ごとに図の中に吹き出しでコメントが記載されているが、色使いが見にくい印象を受けるので工夫していただきたい。また、資料3-2の28頁以降、「修正は必要ないもの」と記載されているが、「修正はしないもの」という表現でよいのではないか。

●事務局：ご意見を踏まえて、見直しをさせていただきたい。

○会長：資料3-3で「電子申請」という区分があるが、市民にお願いして、頂いた意見に「申請」という言葉を使うのは違和感がある。事前に開催された幹事会の際にも伝えて、確認結果を注釈として掲載してもらっているが、茨城県からサービス提供を受けているシステムの名称とのことだったので、県の方でも担当部署に伝えていただきたい。

○委員：県のような申請を受け付けるシステムで、パブリックコメントなどでも活用してもらっているものだが、御指摘の点、担当部署に伝えるようにする。

○会 長：ほかに意見がないようなので、本案件について承認とする。指摘した内容について事務局で修正することで、「つくば市地域公共交通計画」の策定完了とする。今回の計画は「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」の改正後の第1弾の計画の1つである。一期生であることをぜひ委員の皆さんからもアピールしていただければと思う。

・報告案件1 公共交通の利用に関するアンケート調査の集計結果について

●事務局：資料5に基づき、今年度実施したアンケート調査結果の属性等を踏まえたクロス集計結果について説明。

○委員：結果をみると公共交通への期待は、年齢層が高いほど高くなっており、このような方々を対象にPRしていくことが今後重要になるだろう。また、運行本数が少ないシャトルで運行本数の満足度が低いことは仕方がないが、例えば、路線バスとつくバスでダイヤを調整することで、等間隔運行にするなどの工夫もできるかと思う。

○委員：12頁の表に11頁にある全年齢階層のリスク認知の数値もあるとよいと思う。また、フォントサイズが少し小さいため、もう少し大きくなるとうい。

●事務局：HPへアップロードする際に調整する。

○委員：今回の運行本数に関する満足度をみて、計画書にある等時間圏域の計算で待ち時間を一律5分としている点を本数に応じて待ち時間を変えることもあるのでは、と思った。今後の検討の際に運行本数に応じた待ち時間の設定や乗り換え時間の考慮なども考慮すると、なおよいかと思う。

○会 長：過去に学生の研究で待ち時間を分析したことがある。運行頻度の多い場合は、おおよそ運行間隔の半分程度になるが、頻度が20分を超えると1時間に1本になっても待ち時間は5～10分くらいで変わらない。5分という設定は少し甘いかもしれないが、それほど悪くない印象を持っている。

○会 長：19頁の公共交通に協力できることで「協力することを考えていない」が全体で2割、公共交通を日常的に利用していない人で

も24%しかなく、非常に協力的ですばらしい印象を受けた。一方で、20ページの運行経費率が10%の公共交通サービスに対する考えは、どの年代も「利便性を向上させて利用者を増やすべきである」が最も多い。協力する意向がある一方で、利便性の向上を求めるという矛盾は、今後の伸びしろの部分かと思うので、さらなるアピールが必要かと思う。

・その他 会長退任のご挨拶

○会長：長く会長職を務めさせて頂き、うまくいったこと、うまくいかなかったこと、思い返すと様々あった。公共交通は目的地までの速達性と面的なサービスをどう両立させるかが難しいところで、うまく連携できなかった点は心残りである。

一方で、協議会や各地域での意見交換などを経て、協力して全体で進める点はとてもうまくいった点だと思っている。現在の新型コロナウイルス感染症における状況は、人が移動したいときに移動できない、行動の自由を制限されることで、刑罰にも等しい状況だが、その中でも必死に頑張って、公共交通のサービスをかなり高いレベルで提供できてきたと思う。蓄積してきた利用実績やアンケート調査のデータ、また全員で考えるという場は非常に重要な資産である。この資産を活かして、引き続き頑張っていたいただきたい。長い間、ありがとうございました。

以上